

万葉図書・情報室だより40号

檀原文庫から万葉文庫へ

そして万葉図書・情報室へ



万葉文化館万葉図書・情報室は、現在、約一万六千冊の書籍を所蔵しています。うち、二千五百冊は旧奈良県立檀原文庫から引き継ぎました。今回はその来歴をご紹介します。

檀原文庫の時代

檀原文庫の前身は、昭和十五年開設の檀原公苑の檀原道場内施設「檀原文庫」になります。「檀原文庫」には、大和国史館があり、佐佐木信綱氏の指導により万葉集関連の資料が収集されました。戦後に大和国史館は大和歴史館と改称され、現在は檀原考古学研究所附属博物館として親しまれています。

万葉文庫の時代

昭和四十五年「檀原文庫」は、檀原公苑から独立し、檀原図書館と改称しました。これを機に、大和歴史館所蔵の中の万葉関係の書籍や『万

葉集画撰』などの稀覯本（きこうぼん）が檀原図書館へ移されました。

さらに、佐佐木信綱門下の辰巳利文氏や元檀原文庫主事の池田源太氏など万葉関係者らの意見を広く取り入れて、檀原図書館内に「万葉文庫」が設けられ、研究活動として万葉研究会が発足しました。自由に誰でも参加できる月一回の研究会が開催されたほか、臨地見学会・研究発表・歌会・講演会を開催するとともに、これらの成果をまとめた会報『万葉』を刊行し、内外にその活動の成果を発信しました。

研究会発足当時の委員には、辰巳氏と池田氏、国文学者の石井庄司氏・犬養孝氏・吉永登氏、考古学者の末永雅雄氏、植物生態学者の小清水卓二氏らそうそうたるメンバーが在籍していました。

そして万葉図書・情報室へ

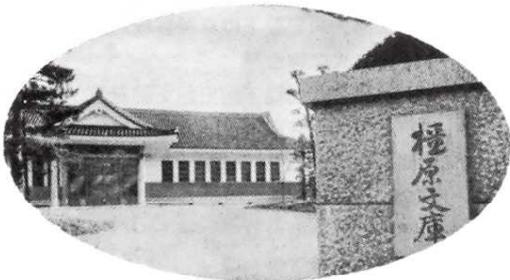
平成三年八月、委員会から檀原図書館「万葉文庫」を拡充し、万葉資料館として整備設置をめざすよう県

に要望が出されました。

平成十二年八月三十日の運営委員会において、平成十三年秋の万葉文化館開館に伴い、檀原図書館「万葉文庫」の閉鎖と研究会の解散が承認されました。

会報『万葉』は平成十三年三月三十一日発行の三十一号をもって終刊となりました。一号から最終号までを当館で所蔵しています。

檀原図書館『万葉文庫』から引き継いだ資料は、万葉図書・情報室の基礎部分を構成するコレクションとして利用者に活用されています。



▲檀原文庫

写真は『奈良県立檀原公苑創立五十年史』より

〈参考文献〉

会報『万葉』

奈良県図書館協会報『木簡』

○新着図書案内○

☆古事記と太安万侶

（和田萃／吉川弘文館）

☆現代語訳魏志倭人伝

（松尾光／KADOKAWA）

☆万葉びとの宴

（上野誠／講談社現代新書）

☆万葉集の読み方

（梶川信行／翰林書房）

☆万葉集と日本人

（小川靖彦／角川選書）

☆聖武天皇と紫香楽宮

（榮原永遠男／敬文舎）

☆ヤマト政権の一大勢力

（今尾文昭／新泉社）

利用案内

開館時間 午前10時～午後5時半

休館日 1月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始・展示替日

図書室のご利用は無料です

閲覧でのご利用になります。

コピーサービス 白 黒 一枚 10円

カラー一枚 50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室

奈良県高市郡明日香村飛鳥一〇

0744-54-1850（代）